

アレキサンドル・シドレンコ

Alexandre Sidorenko

元国連高齢化担当官

バトラー博士は、思想家、研究者、米国および世界中の高齢者の代弁者、そして影響力を持つ作家であった。彼の研究によって老年学の現代思想が形成されたが、最も重要なことは、それによって高齢化に関する政策的措置が促進されたことだ。彼は、高齢者に対する差別を表す「エイジズム」という用語を創り、それを糾弾した。老年精神学者として、高齢者が昔の記憶に没頭する現象を描写するために「回想法」の概念を導入した。また、最も新しい用語は“shortevity”で、貧困国における非道な命の短縮について述べるために用いた。

彼の著した数冊の本によって、人口および個人のエイジングについて私たちの理解が形成され、方向付けられた。近年の著書である“The Longevity Revolution”は、人口統計学上の高齢

化によってもたらされた人類史上最も意味の深い社会的転換の一つをテーマにした。

バトラー博士の考えが政治活動を鼓舞していることは明確であり、彼の絶えざる献身は報われた。1995年、「高齢化に関するホワイトハウス会議」の議長として、米国の高齢化問題の政策への提言を作成する過程でバトラー博士はその先頭に立った。国連高齢化プログラム委員会の同僚と私は、2002年の第2回「国連高齢化に関する世界会議」に向けて、バトラー博士と米国の仲間と共同で準備したことを誇りに思った。

バトラー博士が私たちに残してくれた遺産は、これからの世代の老年学者らを奮起させ、献身と専心を貫く人生のモデルとなるであろう。



筆者(左)とバトラー博士
(ILC Annual Report 2002)

